

合併後の地域が元気！！「地域課題解決エンジン」の構築 ～新たな地域経営体とコミュニティの指標化で、持続させる地域再生～

概要

農・漁村地帯の7町村が合併して誕生した本市は、財政力が弱く、地域の生き残りをかけて行財政改革に取り組んできた。合併前の町村役場に設置した「支所」は、人員と機能を縮小せざるを得ず、地域に「寂れ感」が漂い始めている。魅力的で持続する地域づくりのためには、住民自治の原則に立ち返り、地域課題の指標化と、官・民・企業が機能分担する新たな協働組織の創設が重要である。

本市では、昨年より旧町村単位に地域づくり協議会を設置し、新たな地域経営の仕組みづくりを模索している。そこで、本事業において、地域を客観的に見ることのできる「地域資源・課題指標化システム」の構築を行い、明らかにした市内117コミュニティの課題や可能性を、地域づくり協議会を核とした新たな地域経営体によって地域連携を促進させ、意欲的かつ持続的に課題解決に取り組む続ける仕組み「地域課題解決エンジン」の構築を行った。

千葉県南房総市



空家ワークショップの状況

事業の内容

事業内容

○《地域資源・課題指標化システムの構築》

千葉工業大学との協働体制により研究を進め、各種地域統計、行政資料とアンケートから、117コミュニティ単位のデータの細分化及び指標の体系化を図った。また、GIS(地域情報システム)に旧町村単位の区画、117行政区単位の区画など機能追加を行い、指標のマップ化(見える化)を実現する「地域資源・課題指標化システム」を構築した。さらに、指標を活用したワークショップを実施し、指標の活用方法の検証と、指標活用型ワークショップ手順の策定(使える化)も行った。

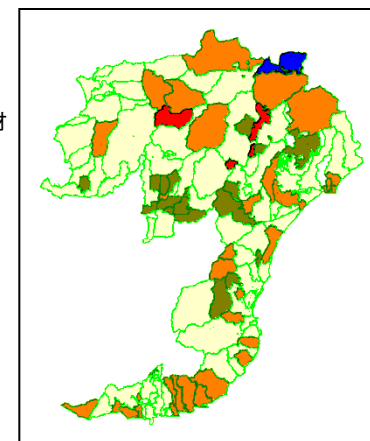
○《地域経営体の運営》

地域づくり協議会が核となり、地域の様々な団体が連携した「新たな地域経営体」を構成し、ワークショップを開催。和田地区では、「和田っ子安心安全マップづくり」、白浜地区では、地域の絆をテーマとした地域住民の交流イベントを実施するなど、課題解決への活動が動き出した。また、ファンリテータ研修を開催し、人材発掘と地域プロデューサー等の能力開発を図った。

○《実証実験》

地域資源・課題指標化システムの検証を兼ね、経営体の地域課題解決手法を導くための実証実験を行った。

- 実証実験①(地域福祉対策): 地域福祉プロデューサーを配置し、地域の実態を把握するモニタリング調査を実施し、調査結果を基に、指標化データ収集のためのアンケート項目、調査マニュアルの策定を行った。また、地域の福祉機能を実証する「いきいき談話室」の開設。さらに地域の商店調査を実施し、高齢者対策につながる指標のマップ化を行った。
- 実証実験②(日常生活対策): 買い物不便地域を地域資源・課題指標化システムから抽出し、希望地域でのワークショップを展開。解決策として地域商店(和田、白浜地区の8店舗)と地域づくり協議会の連携による宅配サービスを実施した。
- 実証実験③(空家対策): 白浜地区の行政区長による空家調査を実施し、360件の空家データを収集。空家データはマップ化し、これをもとに地域づくり協議会、民間事業者からなる地域経営体を構成し、ワークショップを開催。課題解決の検討を進めた。



GISを活用したマップ
(65歳以上人口比率)

ポイント

- 過疎地域の課題は多種多様であり、個々の課題に対応し解決するための道具(地域を客観的に見る目)とそれを活用できる仕組みを本事業で構築した。
- 117行政区単位の指標化は、市内の地域間比較を容易とする。また、指標のマップ化は、地域の強み・弱みをさらに明らかにしていく。
- 指標化システムでは、住民の生活満足度推計モデルを構築している。生活満足度を向上するため施策分析という新たな視点を入れている。
- 本事業では、システム構築だけでなく、その活用方法についても指標を活用したワークショップを展開し、検証・検討を行っている。

事業の成果

- 住民には、地域を見直すことで、地域へのほこり、安心感が芽生え、地域への愛着が高まってさらに行動が進み、行政は、地域に根ざしたきめ細かな施策の展開が可能になる。
- 住民自らが地域課題の解決を目指す組織「地域づくり協議会」を始めとする住民組織と、行政との地域に対する意識の共有が生まれ、協働によるまちづくりが促進される。
- 地域経営体の核となる地域づくり協議会が、新たな地域連携を促進させる中間支援機能を持ち、地域の横のつながりをつくり、地域に新たな連携力、活動実施力を蓄える。その中で指標化システムが地域の始動力となり、持続的な地域経営が可能となる。
- 今後は、指標化システムの活用可能な人材養成、継続的なシステム運用のための指標データの絞込みと地域活動や行政施策の成果を客観的に見る評価指標の構築を進めていく。